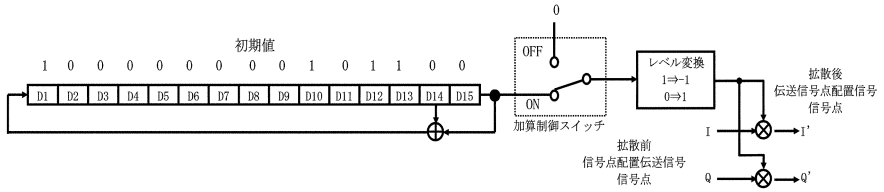
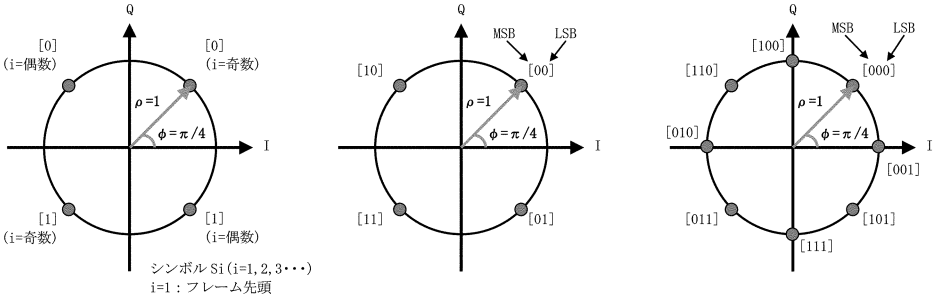
別記３　電力拡散信号

１フレームを周期とし、次に示す図のように$x^{15}+x^{14}+1$（15次M系列）により発生する擬似乱数符号系列の０あるいは１に応じて、Ｉ－Ｑ直交座標上の信号点座標を０度あるいは180度回転させることにより行う。信号点配置情報以外の区間については、電力拡散回路の擬似乱数符号系列の発生を停止するものとする。



⊕：排他的論理和の演算素子
⊗：乗算の演算素子



２分のπシフト二相位相変調:[C0]　　四相位相変調：[C1 C0]　　八相位相変調：[C2 C1 C0]

注　別表第六十二号に示す１フレーム内で伝送される２分のπシフト二相位相変調のシンボルS_i（ｉ＝１，２，３，・・・）は次式に示す２分のπシフト二相位相変調シンボルに変調される。

$I_{2i-1}=Q_{2i-1}=(1/\sqrt{2})(1-2S_{2i-1})$、$I_{2i}=Q_{2i}=-(1/\sqrt{2})(1-2S_{2i})$、（ｉ＝１，２，３，・・・）、ｉ＝１：フレーム先頭

別表第六十三号　搬送波の絶対位相偏位（第59条第４項関係）

変調方式	シンボル割付	絶対位相偏位
２分のπシフト二相位相変調	０ １	（＋）45度又は（＋）135度 （－）45度又は（－）135度
四相位相変調	０，０ ０，１ １，０ １，１	（＋）　45度 （－）　45度 （＋）135度 （－）135度
八相位相変調	０，０，０ ０，０，１ ０，１，０ ０，１，１ １，０，０ １，０，１ １，１，０ １，１，１	（＋）　45度 ０度 （＋）180度 （－）135度 （＋）　90度 （－）　45度 （＋）135度 （－）　90度

別表第六十四号　高度広帯域伝送デジタル放送のろ波器の周波数特性（第59条第５項関係）

$$\begin{cases} 1 & |F|\leq F_n\times(1-\alpha) \\ \sqrt{\dfrac{1}{2}+\dfrac{1}{2}\sin\dfrac{\pi}{2F_n}\left[\dfrac{F_n-|F|}{\alpha}\right]} & F_n(1-\alpha)\leq|F|\leq F_n(1+\alpha) \\ 0 & |F|\geq F_n(1+\alpha) \end{cases}$$

注　Ｆは周波数、F_nはナイキスト周波数、αはロールオフ率を表し、次の値とする。

$F_n=16.29705$（MHz）

$\alpha=0.1$